

### 3-13. 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 (福井県勝山市)

#### (1) 地域の概要

##### 【人口】

24,887人(平成26年10月31日現在)

##### 【地勢】

勝山市は、福井県の北東部に位置し、県都・福井市から東の方向約28kmに位置する。福井市、大野市、坂井市、永平寺町、石川県に隣接している。周囲は1,000m級の火山性の山々に囲まれ、中心部は県下最大河川である九頭竜川が貫流する。市街地は九頭竜川の流れと隆起により形成された河岸段丘上に位置している。

##### 【面積】

253.68 km<sup>2</sup>

##### 【気候、自然】

日本海側気候に分類され、山沿いの盆地という地形から夏は比較的高温・多湿となり、秋から冬にかけては降水量が多く、特に冬は寒冷で降雪のため日照時間も少ない。特に山間部は豪雪地帯である。その豪雪地帯に属し、湿潤な環境に恵まれているため、多くの動植物が生息している。このような生物多様性は、ジオパーク(勝山市)内の多様な地形・地質などから生まれたものであり、四季に応じて様々な動植物や風景を楽しむことができる。

##### 【歴史】

本市には、約1万5千年前から人々が住んでいたことが市内に点在する遺跡から出土した遺物から明らかになっている。717年、泰澄により平泉寺が開かれ、白山信仰が盛んになるとともに白山信仰の中核寺院である平泉寺が勢力を増す。しかし、戦国時代1574年、平泉寺は一向一揆衆の襲撃により全山消滅する。江戸時代に入り、河岸段丘上(現在の中心市街地)に城下町(勝山の現在の基盤)が形成された。明治時代に入り、絹織物が盛んになり繊維産業の基盤を築き現在に至る。1989年、恐竜化石発掘調査と平泉寺発掘調査の二つの発掘調査研究が始まる。

##### 【観光】

勝山市には年間約170万人の人たちが訪れている。観光施設の中心は福井県立恐竜博物館であり、年間70万人の誘客数を誇る。その他、スキージャム勝山や白山旧境内などの観光施設が点在している。また、加越山地の山々の登山や九頭竜川の鮎釣りなど多くの人たちが訪れている。ただし、それらの観光資源や自然は有機的に結びついていない。

### 【地域資源の概要】

勝山市の地域資源は、地球活動の痕跡や豊かな自然環境、そして勝山の人たちが築き営んできた生活や歴史文化と多岐に揃っている。大きく言うと、恐竜が生きていた時代から恐竜化石が発見されるまでの間に形成されてきた地球活動の遺産や自然遺産、そして、それら風土による独自の歴史文化遺産がエリア内に点在している。

- ・ジオ多様性 (Geodiversity) : 地球の営みにより形成された地形・地質遺産  
化石、露頭、山や川、滝、風景などの地形・地質の多様性
- ・生物多様性 (Biodiversity) : 勝山の地形・地質により形成された豊かな生態系  
植物群落、湿原、動植物、アカトンボ、希少種などの生物多様性
- ・歴史文化の多様性 (Culturaldiversity) : 風土により形成される独自の歴史・  
文化

歴史的建造物、無形文化財、祭などの歴史文化の多様性 (独自性)

これらの遺産は、当エリアのエコミュージアム、ジオパーク、BiosphereRwserve (ユネスコエコパーク) の構成遺産となり重複して活用されている。

## (2) アドバイザー派遣申請の背景・地域の課題

---

### 1) 派遣申請の背景

福井県勝山市は、市内全域がジオパークのエリアとされており、またその一部が白山国立公園、白山BRに指定されている。当地域は、エリア内でそれらのジオパークの取組を同時に行っている地域であるが、今後、豊かな自然を活用した勝山でエコツーリズムの概念を取り入れ一体的なニューツーリズムを目指す必要があった。

### 2) 地域の課題

地域では、ジオパーク、エコミュージアム、BRが共通した地域資源を活用しながら取組を行なっている。市内には多くの自然遺産やそれらにより醸成された地域資源が点在しているが、一体的に活用されておらず、考え方を同じくするエコツーリズムやジオツーリズムに活かされていない。また、それらを企画運営する形態についてもあまり進んでいないのが現状で、エコツーリズムやジオツーリズムの本来の意味を認識している行政職員や地域住民が少なく、地域に責任を持ったツーリズムの確立が望まれている。

今回のエコツーリズム推進アドバイザー派遣事業により、地域の自然を対象にしたエコツーリズム、ジオツーリズム推進にあたって、エリアを決めての地域住民・グループ、行政の意識の高揚や役割を明確にした上で、持続可能なエコツーリズム、ジオツーリズムを推進するためのプラットフォームもしくはモデルの完成を目指す必要がある。また、エコツーリズムの資源となる生物多様性やジオツーリズムの資

源となるジオ多様性を地域の多様な主体の連携により保全する活動を活性化させる必要がある。

### (3) アドバイザー派遣の概要

日	時	平成 26 年 11 月 10 日（月）～平成 26 年 11 月 12 日（水）
場	所	福井県勝山市（恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク／白山 BR エリア） 勝山市教育会館、福井県立恐竜博物館、かつやま恐竜の森管理事務所、のむき風の郷、北谷町谷集落、小原集落、大矢谷白山神社、池ヶ原湿原、白山平泉寺旧境内ほか
アドバイザー		環境映像ディレクター・プロデューサー 鈴木順一郎 氏
参加者		17 名
スケジュール・方法		<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、意見交換、視察、ヒアリング</li> </ul> <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察、ヒアリング (のむき風の郷事務所、えごま油加工場、北谷町谷集落、北谷町小原集落)</li> </ul> <p>【3日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察、ヒアリング (大矢谷白山神社の巨大岩塊、池ヶ原湿原、白山平泉寺旧境内ほか)</li> <li>・全体会議 (エコツーリズム研修会、対応者との意見交換会、具体的な助言の確認)</li> </ul>

### (4) アドバイスの内容

#### 1) エコツーリズムの概念について講義

エコツーリズムの考え方

理想的なエコツーリズム推進体制（持続可能な体制）について

効果的な広報戦略について

（助言）

受け手にとってエコミュージアム、ジオパーク、エコパークは関係がない、線を引かないでやれることは一緒にやること。全ては同じ環境の上で行われている。

ツーリズムの中でヒット商品をつくること。そのためには体系的にバランスよく考えてみる必要がある。

地域の人が当たり前と思っていることの中に宝が眠っている。当たり前が素晴らしい。

#### 2) 視察及び助言

##### ①かつやま恐竜の森

##### ア. 視察等の内容

- ・かつやま恐竜の森（里山、都市公園）の概要説明
- ・NPO 法人恐竜のまち勝山応援隊の活動の概要説明
- ・ジオパークの拠点施設としての今後の取組についての説明

#### イ. 助言

- ・様々なメニューの中から、「恐竜」が入口で出口は「自然」といった具合に、様々な体験から勝山はいいところだという印象を与えて欲しい。
- ・そのためには恐竜と現代（自然）をつなげるコンセプトが必要。
- ・ビジターセンターのネーミング、キャッチフレーズが重要。
- ・ビジターセンター内にコンシェルジュ機能を持たせるとよい。特別意識（特別な案内）を感じてもらえる。そのためには勝山市全体のことを知らないといけない。

### ②のむき風の郷

#### ア. 視察等の内容

- ・野向町まちづくり推進協議会の事業概要の説明
- ・えごま栽培からえごま油等の販売まで一貫する、のむき風の郷の事業概要説明
- ・えごま油搾油工場視察

#### イ. 助言

- ・地域に来た人たちにえごまの産地ということが理解できる仕組みを取り入れること。
- ・当たり前のことをしっかり説明すること。何故、えごまがここで栽培されているのか。
- ・えごまの圃場を守る活動を行うために、鳥（ヒワ）害を自然的な角度から学び、高齢者の活用など地域住民の参加意識を受け付けてはどうか。

### ③北谷町谷区

#### ア. 視察等の内容

- ・ケヤキ群生、不動滝、湧水、ブナ林（遠望）、フットパスコースの視察
- ・谷区が受け入れをしているエコツアーや自然観察会、はやし込まつり等の説明
- ・北谷活性化・再生に向けた協議会が催行する各種ツアーの説明

#### イ. 助言

- ・谷区は様々な資源があるが何をメインテーマにするか検討する必要がある。
- ・資源が狭いエリアに集約されていて、コンパクトでよい環境である。その環境において自然系のガイドを養成する場所として活用、活動してはどうか。
- ・山を知る世代がいなくなっている、山の知恵、ルールを学ぶことは価値がある。

#### ④北谷町小原区

##### ア. 視察等の内容

- ・閉鎖されている小原集落～赤兎山／大長山登山道入り口の間の風景や資源を視察。

##### イ. 助言

- ・どういう位置関係の中で小原集落があるのか見させてもらった。豊かでダイナミックな自然、歴史文化といった地域資源が豊富なことに驚いた。
- ・現在行っている古民家を拠点としたエコツアー等に自信を持って更に伸ばしてもらいたい。

#### ⑤平泉寺町大矢谷白山神社ほか

##### ア. 視察等の内容

- ・大矢谷白山神社の巨大岩塊、池ヶ原湿原、赤尾大堤等の経ヶ岳の山体崩壊に伴う岩屑なだれで形成された地形等を視察
- ・白山平泉寺旧境内の視察

##### イ. 助言

- ・湿原が寂しすぎるため、貴重な湿地などを見せられる工夫を行ってはどうか。
- ・木道の再整備必要、テラスの設置を行ってはどうか。
- ・白山平泉寺旧境内で偶然ボランティアガイドと話ができた。ちゃんと適正なガイド料金をもらうような仕組みを確立してもらいたい。ボランティアガイドは責任がなく、長続きしない。

### 3) エコツーリズムの概念について講義、意見交換（全体会議）

- ・エコツーリズムの考え方
- ・理想的なエコツーリズム推進体制（持続可能な体制）について
- ・効果的な広報戦略について

### 4) 勝山を視察してのアドバイザーの印象及びそれに対する助言

- ・地域の宝の整理、保全を行う必要を感じた。
- ・様々な要素がフィールド上で複雑に絡んでいるという印象。
- ・ターゲットと目標を明確にして、そのために何をやるのかを考える必要がある。
- ・単なる観光か環境保全型の観光のどちらを選択するのか。両立か。
- ・勝山の売りはなになのか、わからない。恐竜か、自然か、歴史文化か整理すべき。（市民と行政と一緒に考えていく必要があると考えられる。）
- ・勝山型のツーリズムの中にエコツーリズムの考え方を落とし込めばよい。
- ・ジオツーリズムに関して、ジオパークの専門書、ガイドブックを作成してはどうか。

あくまでも入口は恐竜、恐竜化石で出口は自然に抜けるもの。

## 5) 参加者からの意見や質問

- ・助言の中で地域資源やツアーのシンプルさを求められているが絞ることが難しい。行政といろいろと協働しているが、予算等も集中できていないように感じられる。  
→行政の縦割りの弊害。幸い目標化されていないので可能性を感じる。
- ・エコツーリズムの考えに基づき推進の土台をつくるのは行政の役割ではないか。  
→市民が気付き声を上げるべきである。行政主導になっている理由は、多くの団体が行政にぶら下がっているからである。官民の両方が自立していく仕組みづくり必要。
- ・勝山の魅力の中で、自然豊かなところと紹介するがその豊かな部分が見つからない。何を指し示すものか含めて。  
→もっと地域の様々な人たちと勝山について考えてみる必要がある。市民で勝山の魅力って何かを考える必要がある。当たり前なのが当たり前でない。

## (5) アドバイザー派遣の効果

---

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

地域の自然を保全し、活用していくエコツーリズムの考え方が理解してもらえた。地域が目標を持って、自然を保全、活用しながら様々なターゲットに対して、何を意識させるのか、知ってもらうのか、感じてもらうのか、何を伝えたいのかを考えながら活動をしていく意識が芽生えたものと考えられる。

地域では当たり前になっているものの価値を磨き伝えるという意識付けができた。

### 2) 今後の期待される効果

- ・様々な団体の連携強化、情報共有。
- ・自然というフィールド上の地域資源の整理、活用。

### 3) 今後の取組

エコツーリズムの考えのもと、地域資源を整理し、様々な団体の連携や協力による「勝山型ツーリズム」の確立に向けた取組の検討をしたい。

勝山の「魅力」や「売り」といったもの、言い換えれば「地域アイデンティティ」を形成するためのジオパーク活動を推進したい。

## (6) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### 1) 参考となった事項

- ・今の時代に一致したエコツーリズムの考え方
- ・エコツーリズムの考え方を取り入れた理想的な推進体制の考え方
- ・効果的な広報戦略
- ・地域内の連携と組織の再構築について

### 2) その他感想（参加者から）

- ・ガイドの質の向上のため研鑽を重ねなければと思った。
- ・再度、団体の資源のカテゴリーを仕分け、団体側に足りないことを再考する良いきっかけとなった。
- ・勝山市全体のツーリズムが連携できないことが、もどかしく感じた。
- ・エコツーリズムの概念について、多少ながら理解できた。また、これまでと違った視点での意見を聞くことができ、今後の参考になった。
- ・一つのことだけに拘って活動をやればそれでよいのか疑問が残った。
- ・このような機会を頂き、エコツーリズムについて改めて整理して考えることができ、参考になった。
- ・関係者との研修・忌憚のない意見交換が改めて大切であることを痛感した。要するに意思疎通が大切。
- ・エコツーリズムなどが勝山の現状と合っている取組なのか疑問が残った。

【記録写真】



写真1：行政職員を対象とした研修会



写真2：公園管理事務所でのヒアリング



写真3：不動滝の視察



写真4：池ヶ原湿原の視察



写真5：のむき風の郷でのヒアリング



写真6 最終日\_全体会議



## (7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

環境映像ディレクター・プロデューサー 鈴木順一郎 氏

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

現在、勝山市では、「ジオパークとジオツーリズムへの取組」「エコミュージアムとエコツアーへの取組」「ユネスコエコパークへの取組」について、それぞれ取組が行われている。一部が白山国立公園に指定されていることもあり、壮大な自然美と恐竜の化石が多く出土する多様で遺産価値の高い地層は、大変魅力的な地域である。

#### ②課題

「ジオパークとジオツーリズムへの取組」「エコミュージアムとエコツアーへの取組」「ユネスコエコパークへの取組」地域が同地域で重複しているところがあり、どれが勝山市の「魅力」であるのかわかりづらい。そのために、今回、エコツーリズムの考え方を導入し、3つの取組を一本化あるいは整理できないかというのが課題であった。また、「持続可能な開発のための教育（ESD）」への取組も積極的に行われている。これらを総合的に整理して効果的な「勝山市の魅力」を見出さなければならない。

また、勝山市には福井県の県立恐竜博物館があり、年間70万人の人々が訪れる。このイメージが大きすぎ、勝山市といえば「恐竜」というネーミング性が、本来の勝山市の魅力をわかりづらくしてしまっている。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

#### ①魅力を感じた地域資源

特に魅力を感じるのは、壮大な自然資源、自然遺産である。白山系からつながり勝山市に至る森と水は、古くから自然と人間の共生の形を織り成しており、まさに日本の里山の象徴ともいえる生活が今なお残っている。さらにその中に身を投じてみると、生物の多さ、森林の豊かさ、清らかな河川との共存・利用などが実感できる。また、歴史の古さと宗教観も生活の中に色濃く残っている。

#### ②上記地域資源に魅力を感じた理由

ここに暮らす人々にとっては「ごくごくあたり前の自然」が、外部から来たものにとっては驚かされるほど豊かな自然。この部分に大変魅力を感じた。「あたり前」であるからわからないのも当然である。「あたり前」であるから、まだまだ探せば沢山の「宝」が見つかるはずである。自然を利用した人々の暮らしの知恵の数々も魅力である。まだまだこれからというのが勝山市の魅力である。しかし、やはり勝山市も少子高齢化の波が押し寄せ、限界集落といわれる集落は衰退していく方向にある。こうした集落を甦らせようとする自然保護団体等の活動も魅力の一

つである。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

#### ①選定地域に具体的アドバイスや事例紹介

まず、行政の方々に対しては、エコツーリズムが、こうした豊かな自然地域において、すべての基礎（土台）に成り得ることを解説させていただき、その上で様々なツーリズムを展開できる可能性をお伝えした。具体的にはジオツアーであっても、グリーンツアーであっても（エコツアーは言うまでもなく）、さらにESDであっても、すべての土台にエコツーリズムの考え方が共通して存在し導入することが可能であることをお伝えし、土台の考え方にエコツーリズムの考え方を取り入れることで一本化できる可能性を解説。それを行うために現在縦割りにバラバラに展開される各ツーリズムや自然遺産要素を、もう一度整理し、打ち出し方を考えるべきであることを強調した。

これは私の私的な感想であるが、どうもいつもカタカナ英語である〇〇ツーリズムや〇〇パークといった言葉や考え方に惑わされているように思える。そういった言葉を使わなくとも、日本の良き自然と歴史との共存・共生の足跡は、名前をあえてつけなくとも、定義をあえてつけなくとも「魅力は魅力」。「宝は宝」なのではないだろうか。

そういった意味からも、今回の派遣では「勝山ツーリズム」をここでもう一度考えていただきたいことを強調した。何がと言われればすぐに答えが出ない、逆に、魅力が平均的にありすぎるから出ないという印象を伝えた。

また効果的な広報戦略の考え方と具体的な計画の立て方もお伝えした。ポイントは、欲張りすぎず、ターゲットを明確化して、まずは「一つのことを強く広報」することが重要である。これが勝山市の「魅力」再発見にもつながる。

#### ②個別アドバイス

##### ア. NPO 法人恐竜のまち勝山応援隊に対して

年間70万人の恐竜博物館への来場者をどのように掴むかが鍵である。そのために「恐竜」というイメージで引き寄せ、帰る頃には勝山市の自然や人の良さを伝える必要性を伝えた。

入り口は「恐竜」で、出口は「勝山市の魅力」である。これによりリピーターを増やすことができるという可能性を感じた。

##### イ. のむき風の郷に対して

この地にはかつてエゴマが多く栽培されていた。その歴史的な背景などが伝わっていないのでこうした掘り起こしと意味づけをすることによって、この地の「エゴマ」の付加価値が向上することをお伝えした。

##### ウ. 北谷町谷区

勝山市の中でも特に奥地とされる山岳地帯である。その谷間の狭い平地エリアに昔ながらの人々の生活が息づいている。コンパクトにすべてがまとめられているこれこそ優良なエコミュージアムである。森のブナ林から滝の下までがわずかな時間で体験できる。この地形を活かし、自然ガイドの研修所を作ってみてはいかがだろうかという提案をさせていただいた。この地に住む人々そのものが自然ガイドの知識の宝庫だからである。

#### エ. 北谷町小原区

ここではすでに小原の集落を残すべく様々な活動と体験が行われている。国立公園内ということもあり自然は圧巻である。生産性・持続性を確保できる活動の必要性を伝えた。

#### オ. 巨大岩塊、池ヶ原湿原、経ヶ岳の崩壊に伴う岩屑なだれの地形

特に湿原については、惜しい素材だと感じた。木道が施されているのだが、中に入ってしまうとヨシ原の方が人よりも背が高く何も見えない。可能ならば木道を高くし、湿原の中央にテラスを作り、湿原の魅力を満喫できるようにしてはどうだろうかとアドバイスをさせていただいた。こうなればガイドを仕立ててエコツアーも可能になる。湿原の自然を守ることもできる。

### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

#### ①全体構想への取組状況について

現在は、整理すべき時期であり、全体構想以前の問題である。

#### ②全体構想への意向について

勝山市の現在抱える課題を整理することにより、全体構想に勝山市の方向性が合致すれば可能性はある。

#### ③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

まずは整理することである。ターゲットと魅力を絞り込むことが必要。

### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

冒頭で記述したように、魅力がありすぎるのが勝山市のデメリットである。他に魅力がなければよく見えてくるものも、自然景観とその内容が濃すぎてどれが魅力かわからない。それが勝山市である。年間70万人も同市を人々が訪れる（県立恐竜博物館）わけなので、その人々をどのように足止めさせるかが今後の勝山市のツーリズムに大きな影響を及ぼすことになる。勝山市の今後に大きく期待したい。「食」と「宿」が圧倒的に少ないことから勝山の「食」で人々をひきつけることができればと期待する。